

(別紙) 応募用紙「土木広報大賞 2021」

団体名：一般社団法人群馬県建設業協会			
応募部門 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> イベント部門	<input checked="" type="checkbox"/> 映像・メディア部門	<input type="checkbox"/> 広報ツール・アイテム部門
	<input type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input type="checkbox"/> 企画部門

土木広報活動または作品名：SNS を活用した地域防災「ぐんケン見張るくん」

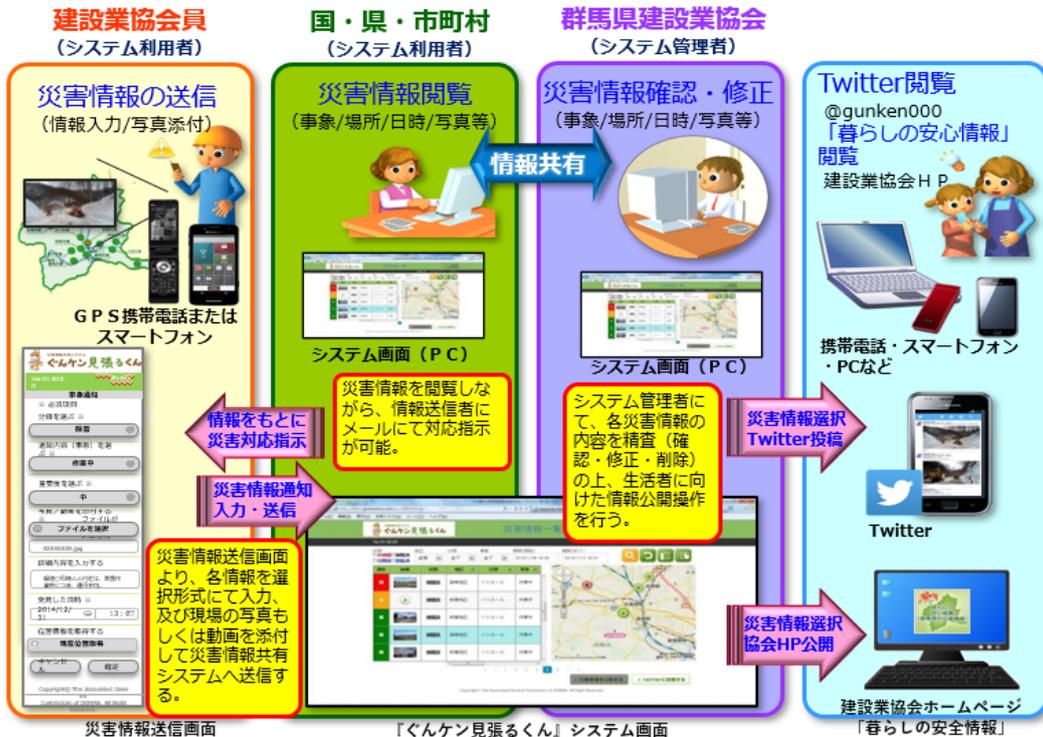
広報活動または作品の概要

はじめに

群馬県建設業協会は、2007年9月に群馬県内に上陸した台風9号による大規模な災害を契機に、現場の最前線で災害復旧に取り組む会員企業が、被災状況や復旧状況を携帯電話から画像と位置情報を送信し、サーバーで一元管理する「GPS携帯による災害情報共有システム」を構築した。これは、民間主導では全国で初の試みであり、道路、河川の管理者である群馬県、国土交通省と災害情報の共有を可能とした。

2014年2月の記録的豪雪の際には、県内各地で除雪作業を行っている様子がシステムに送信され、その状況を広く県民に周知するため、ツイッターを開設して掲載したところ大きな反響があった。これを踏まえて、災害時にも活用できるツイッターと連携する独自の新災害情報共有システム「ぐんケン見張るくん」をNTTドコモと連携して構築し、2014年12月に運用を開始した。

システムの概要



システムの主な特徴

- 災害対応への実績が高い“災害対応のプロ（建設業協会員）”が発信する確実な情報
- 位置情報、文字情報、画像情報に加えて、動画での情報送信が可能（よりリアルな情報へ）
- 送信された情報は、瞬時にシステム利用者（国、県、市町村、建設業協会）と共有
- システム内に Twitter 投稿機能を追加したことで一般生活者へ向けた情報発信がスムーズに

広報による効果

「ぐんケン見張るくん」は、ツイッターで直接群馬県民に災害情報を伝えることができ、1件で3,000近いリツイートの中には、感謝のコメントも多数あった。また、大手メディアも群馬県の被災状況を確認する際に閲覧し、災害情報のソースとして活用している。

■主な過去の画像利用、ツイッター紹介等

2015年2月5日 フジテレビ「スーパーニュース」

⇒除雪作業のツイッター紹介



2017年10月20日 TBS「Nスタ」

⇒嬭恋村での降雪状況



令和元年 台風19号における情報発信

令和元年（2019年）台風19号は、群馬県においても大きな被害をもたらしたが、大手メディアは東京都心部での浸水被害や国管理の大河川の決壊など、大きな被害箇所での報道を主に実施するなかで、群馬県内の浸水状況、護岸崩壊、路肩崩壊など小さな被災箇所も含んだ情報発信を継続的に行った結果、3,000を超える新規のフォロワーを獲得した。群馬県民が欲しい時に、必要な災害情報を提供することができた。

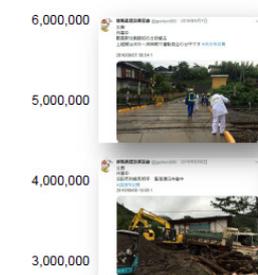


※台風19号における災害情報の発信によって、群馬県民の地域を守る建設業に対する理解が進んだ。

フォロワー数と閲覧数

災害時には少しでも多くの情報が必要とされるため、フォロワー数、閲覧数ともに増加する傾向にある

インプレッション数
7,000,000



※ ツイッターアナリティクスの情報を基に一部修正し作成 2020年1月末作成